

2000 年度

手応えのある初マラソン

別府大分毎日マラソン (大分県:大分市)

岩佐敏弘

マラソン 2時間12分35秒(5位)

岩佐 (大塚製薬) 初マラソンで5位

アテネ五輪へ満点の出来



初マラソンで健闘し、2時間12分35秒の5位でゴールする岩佐 (大塚製薬) 大分市菅原上競技場

初めての42・195⁺。岩佐は雨が降り底冷えする別府湾沿いを淡々と走り抜けた。目標の2時間10分は切れなかったが、初マラソン日本歴代15位のタイムで5位入賞。河野監督が「初マラソンとしては百点満点をやってもいい」と喜ぶ走りだった。

白い息を吐きながらゴールした岩佐も手ごたえをつかんだ。第一声は「マラソンのきつさを体で感じた」と、最も過酷といわれるスポーツの感想に続いて「きょう負けたので(八月の)世界選手権は再び一万円で目指すが、アテネ五輪はマラソンで狙います」。昨年、一万円でシドニー五輪入賞記録を突破しているため、なかなか絶ち切れなかった「トラックで五輪出場」の思いが、これで吹っ切れたようだ。

この日のレースで、優勝した西田との差は「緑の差」だけのように思える。先頭を走っていたタイス(南アフリカ)がペースを上げ、先頭集団がほらけず付着。岩佐は「付いていけば後半、もう少し楽な展開になっていたと思う」と反省した。

だが、結果的にその判断は甘かった。「先頭との距離が開き、追いかけたためにスタミナを使い、ペースダウン。付いていけば後半、もう少し楽な展開になっていたと思う」と反省した。

そのうえは終盤、デッドヒートを演じた。テラン川嶋(旭化成)とは「精神的スタミナの差」が出た。岩佐は29⁺で抜いたが、34⁺で再び抜かれており一抜かず並んで走っていた。また展開は違っていた。いい経験をしました」と振り返った。

「初マラソンなので欲をいったらきりがない。それよりきょうは(岩佐の)可能性が見えた。次の楽しみが膨らんだ」と河野監督。上々のマラソンデビューだった。(水野)